



経営管理委員会会長

奥野長衛

代表理事理事長

河野良雄

## 私たちの使命 農林水産業をしっかりと支えています

私たち農林中央金庫の目的は、「農林水産業者の協同組織を基盤とする金融機関として、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)など出資者である会員のみならず、みなさまのために金融の円滑を図ることにより、農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資すること」。

農林中央金庫法第一条にあるこの社会的役割は、私たち役員一人ひとりが、どのような分野で仕事をしていても忘れることのない、唯一無二の使命です。

私たちはその使命を果たしていくため、農林水産業や関連する産業分野に対する良質な金融サービスの提供、地域社会に根差したJAバンクやJFマリンバンクの金融事業のサポート、およびJForestの取り組む森林再生事業等へのサポートに取り組んでいます。また、会員のみならずみなさまへ収益を還元することを通じ、農林水産業の発展に貢献するという明確な目的のもと、お預かりした資金を原資に国内外で多様な投融資を行っています。

## 社会の変化を捉えた 「農林中央金庫らしいCSR」を目指して

今、農林水産業を取り巻く環境は厳しさが続く一方で、成長産業化や地域の活性化に対する国・社会の関心が高まっています。それに伴い、当金庫と会員が果たすべき役割も変化し続けています。

こうした社会の変化を捉え、的確にCSRに取り組んでいくために、当金庫は平成28年度にCSRの取組分野と課題を再構成しました。

「農林水産業の発展への寄与」、「責任ある金融」、「顧客からの信頼」、「従業員の尊重」、「環境・社会への貢献」、「組織の基盤」の6つの分野と、それらに紐づく17の課題です。

再構成の過程では、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals/SDGs)」等の国際的な動向も踏まえ、検討しました。また、これまでCSRの柱としてきた、「会員への貢献」、「農林水産業振興への貢献」、「社会への貢献」についても、17の課題に反映しています。今後は、「農林中央金庫らしいCSR」を行う

## 現場の声に答える

食・環境・地域社会に深く関わる  
農林水産業をしっかりと支えていくこと。  
それが農林中央金庫の使命にほかなりません。

## 会員との大切な絆

ために、具体的な取組みを進めてまいります。

その一環として、平成28年11月に国連グローバル・コンパクトへの署名を、平成29年5月に赤道原則の採択を行っています。

## 会員との大切な絆 それが私たちのCSRの源泉

CSRの取組分野を再構成しても、会員との大切な絆が私たちのCSRの源泉であることに変わりありません。

当金庫の会員である全国の協同組合は、「相互扶助」の精神のもと、一貫して日本の農林水産業の発展に貢献してきました。それは、農林漁業者を経済的に支援することはもちろん、ふるさとの風景を守り、地域の暮らしを守ることでありました。

そして今、協同組合への期待がさらに高まっています。平成28年11月、「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。また、協同組合は、国連によりSDGsを達成するための重要なステークホルダーの一つとして位置付けられています。国際協同組合同盟(ICA)も、全世

界の協同組合が総力を挙げてSDGsの達成に向けて取り組むことを奨励しています。日本でも、政府による「SDGs実施指針」に協同組合は政府と連携するステークホルダーとして明記されました。

私たちはいっそう心を強くして、会員とともに現場の声に答えながら、業務全般を通じて、経済・社会の持続的な発展に貢献してまいります。

引き続き、当金庫は着実に自らの使命を果たしてまいりますとともに、農林水産業の現場にある会員との絆を源泉に、みなさまへの貢献のあり方を考え、社会的な存在意義を確認しながら、農林水産業の協同組織のグループ全体で相互に連携し、協調してCSRに取り組んでまいります。

本誌は10回目の発行となります。今回は、再構成したCSRの取組分野のうち「農林水産業の発展への寄与」について、「現場の声」をご紹介することにより、私たちの取組みを分かりやすくご説明するよう努めたつもりです。忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。